

# 自治体や学校の工夫により活躍の場が広がるALTの活動事例

JETプログラムでは、約4,000名の語学指導助手（ALT）が日本全国の小・中・高校で活躍しています。各自治体や各学校では、地域やカリキュラムに応じて、授業や授業外の活動、さらには地域との交流などにおいて様々な工夫をこらしています。

本稿では、国際都市としての基盤を生かし、大学とも連携をし、多様なALTを活用して学校や地域における多彩な活動を展開する神戸市における取り組みと、「スーパーサイエンスハイスクール」の特長を生かして通常の英語の授業に加えて「科学英語」の時間においても、大学で科学を専攻したALTを活用する高知県立高知小津高校、他校のALTとも協力して年間6日間の「イングリッシュ・セミナー」を開催し、実用英語力の向上に努める長崎県立佐世保商業高校の事例をご紹介します。

## 神戸市におけるALTの活用に向けた取り組み

神戸市育委員会事務局指導部指導課国際教育指導主事 和田 直樹

### ALTの全中学校への配置を実現

神戸市は国際都市として英語教育の推進および国際理解教育の充実に取り組んできました。特に児童・生徒の実践的コミュニケーション力育成のためにALTを活用し、2004年度から年次計画によりその増員に努めています（2011年1月現在、全116名、うちJETプログラムALTは108名）。

2010年度には、市内の全中学校（83校）および高校（6校）に通年配置を実現しました。また、これに併せて市内全小学校（166校）へのALT訪問も実現しましたが、市内を27ブロックに分け（各ブロックは小中学校の校区を基準に設けた）、ALTは同一ブロック内の小・中学校を訪問しています。これは、小学校英語活動と中学校英語授業の円滑な接続を狙いとしたもので、教員やALTの交流を深めるだけでなく、生徒にとって

も小学校で学んだALTから中学校でも授業を受けられるというメリットもあります。

神戸市では、ALTはティーム・ティーチングで授業を行っていますが、1クラスあたりの年間の担当時間は中学校では35時間超（1週間に1時間）、小学校では5、6年生の英語活動では10時間、3、4年生の国際理解では7時間となっています。

また、全日制高校では、高校によるカリキュラムの違いはありますが、1クラスあたり週2時間程度、定時制高校、特別支援学校においても、週1日の割合で訪問し授業を行っています。

### 多彩な活動を行うALT

このほか、以下の活動も行っています。

#### 1. 神戸国際人育成プログラム

ALTが10人程度のグループで小中高校を訪問し、校外学習授業、異文化交流（インターナシヨ



ALTが自分の国のお祭りの踊りを教える（中学校）

ナルデー）などを行うもので、ALTが企画・運営しています。学校側も学校行事と位置付け、高く評価しています。

### 【主な活動内容】

- ・ 英語授業に多数のALTが参加し、英語面接や会話指導を一斉に効果的に行う。
- ・ 市内見学や学校案内をしながら生徒が市内各所や学校施設を英語で紹介する。
- ・ ALTが出身国ごとに展示教室を作り、生徒はALTが作成したパスポートを使い、英語ゲームやクイズを楽しみながら各国（各教室）を回る。
- ・ スピーチコンテストの審査員をALTが務めることで、質問に答えたり評価をする。
- ・ ALTと生徒が英語で会話しながら、郷土料理や工作を作ったり、お互いの出身国（ALTの母国と日本）の伝統的なスポーツ、遊びや踊りを教え合う。



なお、企画内容は事前に教育委員会に申請し承認を受けています。

（実施校数は、2008年度26校、2009年度16校、2010年度28校（1月現在））

## 2. デリバリーサービス

ALTが幼稚園行事や小学校の職員研修（英語活動研修）に参加する事業です。

幼稚園からは異文化交流、クリスマス会やハロウィン行事への参加、小学校からは夏休みの職員研修へ参加要望が多くなっています。

（事業数：2008年度26校園、2009年度49校園、2010年度18校園（12月現在））

## 3. 教員スキルアップ研修

夏休み中に市内小中高の教員研修を1週間、市内の大学で行っています。小学校中核教員研修で



生徒が新規ALTに市内観光ガイドを英語で行う（高等学校）





異文化紹介とクイズを行う（中学校）

は、教員の英会話能力向上と親睦を深めるために40名程度のALTが参加しています。

#### 4. サマースクール・中学生英語プレゼンテーション大会、さらには教材製作も

サマースクールは、中学校英語科教員とALTの共同企画による行事として、夏休み中（2日間）に実施します。神戸市外国語大学の会場を借り、ALTたちがそれぞれのワークショップ教室を企画します。参加する中学生は、ALTたちと英語でコミュニケーションを図りながら英語のゲーム、クイズ、工作、音楽、ダンスなどを楽しみます。

期間中には、中学生英語プレゼンテーション大会も同じ会場で行われます。ALTは司会、審査、補助役員などを担当するほか、出場生徒の指導も所属校の英語科教員と協力して、発表内容、発音、



表現について指導を行っています。

2010年度は、サマースクールに262名の中学生が参加しました。なお、サマースクールはJET参加者の夏の研修も兼ねており、市内の全JET参加者が参加します。新規来日したJET参加者には、市内の生徒と最初に触れ合う機会になっています。

この他にも、

- ・市内の高専および高校生を対象としたスピーチコンテストの指導
- ・兵庫県および神戸市における中学生聞き取りテストや教材の作成協力
- ・市内の中学校評価問題の作成委員
- ・市内小学校用の視聴覚教材の作成協力
- ・小学校英語活動の「英語ノート」の英語への翻訳および自主教材の作成
- ・中学校教材（DVD、会話教材CDなど）の作成・



クリスマス会



教員スキルアップ研修



トピックごとの面接を行う

### 編集

などを行っています。

また、中学校の昼休み英語放送への参加、市内小中学生向け英語絵本コンテスト（ALTと児童・生徒との共同制作）へも参画しています。

## 5. インターネット等を使った国際交流企画

一部の高校では、2009年度からALTが中心となってインターネットディベートを主にアジアの国々の高校生と実施しています。

また中学校では、2010年度来日のALTが企画したアメリカの学校生徒とのインターネット（スカイプ）による交流が成功し、12月には新聞にも取り上げられました（時差の問題は現地校のPTAの協力を得て最小限にとどめることができました）。なお、学校によってはセキュリティーの観点から、DVDによるビデオレター企画を進



国ごとのブースを作り説明を行う

行中の学校もあります。

## 6. 部活動などの授業以外の活動

部活動の指導はALTの自主性に任されていますが、多くのALTが参加しています。ESS部の指導のほか、運動部や演劇部などでも一緒に練習に参加したり、試合の応援をするほか、JET参加者自身が得意な競技の指導をすることもあります。

### ・ALTが参加している部活動

ESS部、陸上部、テニス部、柔道部、演劇部、パソコン部、コーラス部、バスケットボール部、サッカー部、美術部、吹奏楽部、野球部、家庭科部

また、部活動以外でも、

- ・学校PTAとの英会話教室を実施
- ・校内掲示板を使い、国際交流コーナーを作成する



クイズショーの実施



プレゼンテーション大会の表彰式



児童相談所との交流行事（2月）



ALT作品展（5月）

- ・英語交換日記や英語質問箱の作成による生徒の学習意欲を刺激する
  - ・英語ルーム、英語サロンを企画・運営する
  - ・給食への参画（小学校では、ほとんどのALTが給食を児童と一緒にとっている）
  - ・清掃活動への参加（掃除の時間には、ALTは担当区域を生徒と一緒に清掃をしている）
- などを行っています。

従来はゲストとしての色合いが濃かったALTですが、神戸市では、学校に対しては職員と同様に扱うこと勧めるとともに、ALTに対しても特に来日直後において、職場に早く適応するために、授業以外の場面にも積極的かつ自発的に関わることの重要性を説き、学校とALTが連携した幅広い活動が可能となるような環境づくりに努めています。

## 7. 地域行事などへの参加や教材作成等

勤務時間との関係もあるのでボランティアとしての参加になりますが、多くのALTは地域活動にも積極的に参加し、地元の方々との交流も行っています。

具体的には、

- ・児童福祉施設での国際交流イベントの開催
- ・夜間中学校（生徒は高齢の市内在住のアジア系外国人市民）への出前授業
- ・単身の高齢者世帯への訪問と英語会話
- ・地域の祭り（盆踊り、インド祭り、餅つき）などへの参加

などです。

また、市職員を対象とした英会話教室の開催、日本・南アフリカ交流100周年記念行事への参加、神戸市外国語大学生とのチャット企画の運営なども行っています。

さらに、ALT写真展を開催（2010年度のテーマは「See」）し、ALTが見た神戸の魅力を多くの市民に共有してもらっています。ALTはまた、地域活動にも積極的に参加し、地元の方々との交流も行っています。

## 8. ALTが働きやすい環境づくりと支援に向けて

神戸市では、新規来日したJETが早く神戸市の住環境および仕事に慣れるよう工夫するとともに、来日直後の夏の研修に特に力を入れています。

神戸市では市内3カ所のアパートを斡旋し、神戸オリエンテーション日から入居即生活ができるよう担当者が準備をしています。

アパートへは、配置校の英語科教員が引率し案内しています。地区ごとにJETコミュニティーが存在し、それぞれのALTリーダーが新規来日したJET宅を訪問し生活支援を行います。また教育委員会指導課では、各地区の生活ガイドブックを作成し配布しています。

ネイバーフーズデー（生活安全研修）では、外国人登録、携帯電話の申し込み、市内の重要施設（入国管理局、市役所、区役所、病院、主要駅、交番、警察署）の案内、定期券や日用品などの必要物品の購入、銀行ATMの利用や海外送金の仕方、ゴ



帰国JETの教育長表敬訪問（7月）



新規JET日本語研修（8月）

### 神戸市における新規来日JET向けの 主なスケジュール

- 4月 神戸市ALT総会 ALT勤務説明会  
帰国JET説明会（1）
- 5月 ALT配置校への学校訪問と面談
- 6月 帰国JET説明会（2）
- 7月 帰国JET教育長表敬訪問
- 8月 神戸オリエンテーション  
（新JET受け入れ）  
新規JETネイバーフーズデー  
（新JET生活研修（3日間））  
新規JET日本語研修（4日間）  
ジョブトレーニング  
（職業研修（2日間））  
新規JET日本語研修  
サマースクール  
中学生プレゼンテーション大会
- 10月 新JET配置校への学校訪問  
新JETとの面談
- 11月 中間期研修（1）
- 1月 全ALTとの面接 中間期研修（2）
- 3月 学校配置通知  
小中学校ブロック説明会

ミの出し方等の生活研修、また実際に学校へ出向いての現地研修、緊急時の安全指導や防災学習を行っています。学校での研修では、職員室の黒板

などに記載される日本語や職場で特に必要な日本語やマナー、就労規則などについて指導します。

また、市が主催する日本語研修として市内の語学教室から講師を招き、初級、中級、上級の3クラスに分け4日間、日本語学習を行っています。最終日にはALT全員が日本語スピーチを行い、その成果を競い合っています。

ジョブトレーニング（職業研修）では、大学教授を講師に招いて研修を行っています。特に授業づくりとチームティーチングのあり方が大きなテーマとなっていますが、いくつかの分科会に分かれ、ALTリーダーや委員会関係者、学校教員がパネルディスカッション形式でそれぞれチームティーチング、中高の英語カリキュラム、教材作り、授業規律、職場エチケット、小学校英語、日本の学校や教育、文化についてのガイダンスを行っています。

また、毎年2回（11月と1月）実施する中間期研修会は、直接雇用のALTとJETのALT、小中高の教員が一堂に会して、交流を深め研修するよい機会になっています。

### 9. ALTリーダー制度と神戸市総合教育センターの役割

「ALTリーダー制度」として、区代表（6名）、高校ALT代表（1名）、小学校ALT代表（1名）、国際交流員（CIR）（1名）、市全体の代表（1名）の合計10名のALTをリーダーとしています。

リーダーは定期的に打ち合わせをし、ALT企



ALT中間期研修会



画を討議したり、情報交換を行ったりしています。ALTの生活や仕事上の問題があれば、JETPA (CIR) または教育委員会指導課の指導主事（日本人PA）が必要に応じて面接やカウンセリングを行います。また、指導課とALTリーダーとの親睦を図るために、毎年2回、懇親会を実施しています。

このほか、市内の教職員研修施設である神戸市総合教育センターにはCIRとALT担当指導主事が各1名常駐し、ALTと学校現場の仲介や、各種の生活支援、指導を行っています。

センター内には、ALTが専用利用できる研修室があり、過去の教材資料や授業記録などが整備されているほか、ALTが教材作成や情報交換、会議、研修等に気軽に利用できるよう配慮されています。

## よりよい環境整備に向けた課題

ALTが快適に活動に取り組めるよりよい環境づくりを整備することは、教育現場により効果をもたらし、神戸市の教育にとって大きな財産につながると考えていますが、現状では乗り越えなければならない課題もあります。

- ・ ALTにパソコン1台とアドレスを貸与し、快適にITを使えるようにする。
- ・ 学校現場で週1時間以上のALTと担当教員のミーティングを持てるよう時間割上に設定し、確実に実施できるよう徹底する。

- ・ ALTと教員が十分なチームティーチングが行えない環境にある場合は、指導主事が定期的に訪問するなどして指導、改善を行う。
- ・ ALTによるスピーキングテストなどの経年比較を確実に継続する。
- ・ ALTニュースを定期的に発行し、学校現場にもその翻訳版を送る。
- ・ 中学校英語科教員とALTと一緒に各区の授業研究会に、年に2回、参加することになっているが、それとは別に9月に新JETのための授業参観を行い研修を深める。
- ・ サマースクールは中学生を対象にしている企画ですが、小学生を対象にしたALTとの交流企画を考えるとともに、地域との交流を積極的に行っていく。
- ・ ALTによる自主教材作成委員会を立ち上げ、電子媒体等で気軽に利用できるようにする。
- ・ 子育てに関する支援や情報提供など、生活支援を強化する。

\*

神戸市では、これらの項目を課題と位置づけ、今後もALTと学校教職員、教育委員会がよりよい連携を保ちながらJETプログラムを生かした神戸市の英語教育推進、充実に向けて取り組んでいきたいと考えています。

# スーパーサイエンスハイスクールにおける 「科学英語」授業への活用 ～生物学を専攻したALTとの授業～

高知県立高知小津高等学校

高知県立高知小津高校は、2002年度よりスーパーサイエンスハイスクール（SSH）の研究指定を受け、理数教育を重点的に行う研究開発校として特色ある活動を行っています。2009年度より理数科に学校設定科目「科学英語」を設定し、JETプログラムで配置されたALTを活用して、英語を使った理科の授業に取り組んでいます。

「科学英語」はALTと理科、英語の教員が共同で授業を担当し、理科の各分野を英語で学習する科目です。これまでに、1年生はドライアイスや酵素の反応等について、2年生は地球環境や光合成等について調査や実験を行い、実験方法の解説、使用するレポート、実験結果の考察や発表をすべて英語で行っています。

本校には大学で理系科目を専攻したALTが継続的に配置されており、現ALTのMatthew Rowanさんは生物学の専攻を活かして、科学の楽しさを英語でわかりやすく生徒に教えています。この授業についてマットさんは、「自分の専門性を活かしながら、理科や英語の教員と協力して授業の計画や教材の作成ができるので、やりがいを感じます。この授業では単なる英語の学習に終始せず、科学的な内容について生徒と一緒に活

動し考えることができますし、生徒が英語で発表する機会を多く設けることができるのもこの授業の魅力です」と意欲的に語っています。

生徒たちも、「最初は、理科の内容を英語で理解したり発表するのは難しくて大変だったけれど、マット先生がわかりやすく教えてくれるので、だんだんと分かるようになってき

た」「実験もあるので、授業はとても楽しい」と語っており、生徒たちにも大変好評のようです。

国際系だけでなく理数系の分野でも、英語での発表や質疑応答がますます必須の技能となっており、本校における「科学英語」の取り組みは、ALTの専門性を有効に活用した好事例といえるでしょう。



理系の知識を生かして、器具の使い方を解説



生徒たちはすべて英語でプレゼンテーション

## ■■ スーパーサイエンスハイスクールとは ■■

文部科学省が指定する「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」は、未来を担う科学技術系人材を育てることをねらいとして、理数系教育の充実をはかる取り組みです。

SSHでは「科学への夢」「科学を楽しむ心」をはぐくみ、生徒の個性と能力を一層伸ばしていくことをめざしています。科学技術、理科・数学教育を重点的に行うSSHでは、2002年度より大学や研究機関等とも連携して魅力的なカリキュラムを開発するなど、科学技術に夢と希望を持つ、創造性豊かな人材の育成に取り組んできました。また、SSH指定校を拠点校としての地域への成果の普及などを行っています。2005年度指定校からは、指定期間を3年間から5年間に延長し、将来国際的に通用する人材を育成するための取り組みや高大接続の観点を新たに加え、研究開発を行っています。



# 年間6日間、英語づけのセミナーを開催 ～他校のALTも参加～

長崎県立佐世保商業高等学校外国語指導助手 Jacob Dalton (ジェイコブ・ダルトン)

長崎県立佐世保商業高校国際コミュニケーション科では「生きた口語英語」に重点をおき、卒業時にはフライト・アテンダントやホテル・クラーク、翻訳者レベルの英語力になるよう、積極的な英語教育を行っています。

その一環として、他校のJETプログラムのALTも参加して、年に2回、3日間ずつの「イングリッシュ・セミナー」を開催していますが、本稿では新入生を対象とした春のセミナーについてご紹介します。

春のイングリッシュ・セミナーでは、生徒は1日7時間、3日間で計21時間を日本人英語教師とALTと過ごします。

最初に、ALTは生徒と1対1でインタビューをします。新入生にとってはおそらく、はじめての経験でしょう。生徒たちの反応は様々で、とても神経質になる生徒も、積極的に質問する生徒もいますが、ALTはどんな生徒に対しても「評価している」ということを感じさせないように配慮しています。

その後は、英語のみで何時間もアクティビティをします。ALTは生徒たちに英語の学習動機を聞き、具体的な目標（例：発音の向上など）を立てて、セミナーを進めていきます。この間、目標は生徒のネームカードに書き、つねに目標を見失わないようにします。

セミナーで一番盛り上がるのは、「宝さがし」です。生徒はグループを作り、ヒントを頼りに校内を探し回ります。ALTも生徒と一緒に校内を駆け回り、最後に生徒が「宝」を見つけたときには大喜びします。

このセミナーの素晴らしい点は、どんなレベルの生徒でも英語能力の向上に力点が置かれている

点です。生徒の「熱意と参加意欲」も重視し、英語能力に応じてグループ分けをし、切磋琢磨できる環境を作ります（「宝さがし」では、上級のグループには他のグループよりも難しい英語でヒントを出しています）。「誰が一番英語を知っているか」ではなく、「誰が一番熱心に取り組んだか」が大切なのです。



ジェイコブ・ダルトン氏

終了時の表彰式では、参加したすべてのALTが、熱意と意欲が最もあり、他のメンバーにも好影響を与えた生徒に「Spirit Awards」を与えます。ALTが「なぜその生徒が選ばれたか」を説明すると、いつもは明るく元気な生徒が感激して涙を流すこともあります。

ALTと生徒とのインタビューは、セミナーの最後も行われますが、生徒たちは3日間の経験と思い出を生き生きと語ってくれます。

セミナーを通じてALTと生徒の絆が深まり、終了後もお互いに連絡を取り合うことも珍しくありません。生徒たちは目標を持って英語を使うことで、その後の英語学習に大きな刺激を与える良いきっかけとなります。ALTにとっても、生徒とのコミュニケーションを深める良い機会となっています。